



このコーナーは、文書館に保存している古い写真を皆さんに紹介します。



懐かしの1枚
香川用水導水トンネル起工式
昭和43(1968)年・財田町

香川用水を最初に提唱したのは大久保謙之丞で、明治22(1889)年のことであった。昭和37(1962)年頃から吉野川総合開発計画が具体化し、香川用水計画が軌道にのる。昭和40(1965)年には早明浦ダム建設工事が始まり、昭和43(1968)年10月24日に香川用水導水トンネルの起工式が行われた。竣工・通水式が行われたのは、昭和49(1974)年5月であった。

※文書館では、まちの風景や催事などの古い写真を収集しています。原本はお返ししますので、情報の提供をお願いします。【文書館 ☎63・1010】

「思い出の1ページ」

「導水トンネルの起工式の写真ですね。この場所には今、香川用水記念公園がありますが、工事が始まる前は田んぼが広がっていて、稲や麦、タバコを栽培していました。もう50年も前のことになるんですね」

トンネル工事の作業口近くに住む男性(76歳)は当時の出来事をこう振り返ります。

「工事にあたっては、農地所有者と交渉するために、地元の長野自治会で香川用水対策協議会が作られました。私もメンバーの一人として、参加していました。その当時は今より土地を大事にしていた時代でしたが、やはり香川用水は必要ということで、地元の理解を経て用地買収が進みました。」

工事ではまず、500×600メートルを発破工法で掘っていました。家の真下で発破をかけるので、大きな音や振動があり、大変でした。そのあとは、徳島県の池田ダムに向かってトンネルマシンで地下を掘り進め、全長8キロの導水トンネルが完成しました。今では香川県民にとって、水に恵まれた環境は当たり前になっていますが、徳島県や早明浦ダムがある高知県の人の協力があったこそだと思えます。水を大切にするという意識はこれからも伝えていかないといいけませんね」

もう一人、香川用水記念公園の近所に住む女性(76歳)にも話を聞きました。

「当時、トンネル工事の残土で田んぼが整備されて、道も広がったなあと、すぐくうれしく思った記憶があります。私は近所の人たちと一緒に、工事現場の手伝いにも行きました。大雪が降る中で、トンネルの土台部分を金たわしで削る作業をしたのを覚えています。完成後には、水が流れ出るトンネルの出口付近で鮎釣りをしようと、よく人が来ていました。私も幼かった息子2人と、釣りをしてみました(笑)」

地元の人々の理解と協力のもと完成した導水トンネル。今日もここから、命の水が県内へと配水されています。



後記
誰もが暮らしやすい世の中にするために必要なこと。それはみんなが相手を認めることではないでしょうか。

特集の取材で臨床心理士さんからお話を伺う中で、誰かが頑張りすぎたり、無理をしすぎないよに：という言葉がありました。ちょっと気になることがあるあなたもご家族も、少し立ち止まって専門家を頼ってみませんか？きっと、出口が見つかるヒントがあります。